

中原消防団 広報誌

第13号
平成24年2月
発行
題字 中田 隆

翔太



年頭にあたり



中原消防団長
田中 実

平成24年の新春を区民の皆様方には、健やかに迎えます。本年が区民の皆様にとりまして良い年で有りませう心よりお祈り申し上げます。中原区も人口があつという間に23.5万人を超え、日本一の人口増加率となっております。私達の町が発展して行くことはとても

年頭の御挨拶



中原消防署長
山口 高広

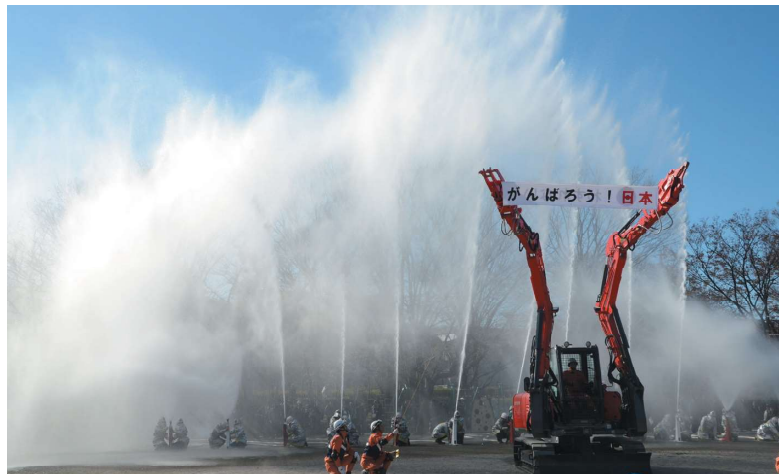
平成24年の輝かしい新春を迎え、中原消防団の皆様にご挨拶申し上げます。また、日頃より中原区の消防行政の推進にあたり、大変な御尽力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

1月7日、好天に恵まれ中原地区消防出初式を盛會裏に挙行できましたことは、

嬉しいことですが、防火・防災等の都市基盤整備が完全に推移していくことが望まれます。

昨年は、大変残念なことに東日本大震災が発生し、日本中の国民を震撼させ私達の知る最大の災害となり、多数の犠牲者が発生し、被災者が今日になつても復興に手が届かず苦しい生活を強いられております。心からご冥福をお祈り申し上げますと共に早く元の生活に戻れますことと願っています。

ひとえに団員皆様の多大なる御協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。本年の出初式は、恒例の県立住吉高等学校チアリーディング部「ランサーズ」の高校生らしい躍動感のある演技の披露、嗜好を凝らした消防団の皆様による干支の引継ぎに続き、消防演技においては、中原警察署の御協力によりパトロールカーと白バイの参加を頂き、当署からは新配置となった双腕作業機「アスタコ」が参加するなど、消防と警察の強固な連携を区民にアピ



ます。また、私達消防団の仲間であります消防団員の中にも消防団活動中犠牲になられた方が54名もおり、そのような中、心が癒えない状態でも消防団の使命を果たしておられます消防団

員の皆様に敬意を表しますと共に、中原消防団としても更なる訓練を重ね地域の皆様と協力し防災力の強化に努めてゆきたいと考えております。そして3・11の経験をお忘れないうち「東日本大震災を振り返って」の研修会を開き中原消防団としての教訓も生かしてゆきたいと思ひ実施いたしました。行政に対しては、教訓から消防団にとって更に必要な資機材の整備もお願いをしております。

今年こそ災害の無

双腕作業機 (ASTACO) と共に一斉放水

曾有の被害をもたらしました。また、8月に発生した台風12号は四国・中国地方に上陸し甚大な被害をもたらした。さらに、9月には台風15号が関東地方を直撃、中原区内でも多数の災害に登場し、消防職・団員が一致協力して、区民の安全を守るために奔走するなど、心底、自然の力の恐ろしさを痛感させられた一年となりました。しかし、どのような災害が発生しようとも、地域住民の安全を確保し、安心を提供することこそが我々消防の任務であります。残

い明るく住みよい町・中原でありますよう願うと共に、消防団一致協力し防火・防災に努めてまいります。引き続き皆様には、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



消防部隊の観閲

念ながら、災害の規模によっては、消防力にも限界があるのも事実であるため、自主防災訓練や中学生を対象とした災害図上訓練(DIG)などを通じて、昨年以上に「地域の防災力の強化」を図って参りたいと思ひます。消防団の皆様におかれましては、地域防災の要として、特段の御協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。結びになりますが、中原消防団員の皆様の益々のご健勝、ご活躍を御祈念申し上げます。

防災は地域の絆と備えから

平成24年中原地区消防出初式開催

平成24年1月7日 (土)・等々力緑地催し物広場



大戸分団による干支交代式



少年消防クラブの行進



表彰式



住吉高校チアリーディング部の演技



平間幼稚園幼年消防クラブの演技



消防部隊の分列行進



消防総合演技



警察車両も参加



消防ヘリ「そよかぜ2」

出初式で愛嬌を振りまいている被り物は、中原消防団第八代団長・中田隆氏が1984年のねずみ年から、毎年作り続けて頂いています。この卯、辰とも三代目です。さて、今年の干支の交代式は団長、署長の発案で、昨年の干支のウサギ消防隊と今年の干支のドラゴン消防隊が協力して暴れまわる火の粉（これが一番の熱演でした）を消す寸劇仕立てにしました。何度かハハサルを行いました。本番も手筈どおりにはいきませんが、会場の皆さんは

干支交代式

結構楽しんで頂けたようですよ。今年、来年は住吉分団が更なるバージョンアップした干支の交代式を見せてくれると思います。来年もお楽しみに！



見事な出来の被り物

我ら中原消防団三銃士

「地域防火・防災の為に頑張ります！」

丸子分団・松川正二郎 班長
住吉分団・押本吉司 団員 中原分団・原 典之 団員



出初式でスクラムを組んで

中原消防団から3名の市議会議員

皆様のおかげで

大谷正勝前団長夫人 大谷 利恵

平成23年10月9日・エポックなからはらにて中原消防団前団長・大谷正勝様の叙勲受章祝賀会が多数の方々の御臨席のもと、盛会に執り行われました。そこで、永年消防団活動に協力し、支えてこられた奥様に想いを綴っていたいただきました。



昨年10月 祝賀会にて お孫さんと

主人は昭和52年に中原消防団に入団させていただき、平成22年3月の退団まで、32年間余り消防団にお世話になりました。入団したときは、先輩の団員の方々に、主人も私も、団員として、またその家族としての心構えをいろいろと聞かされたことを今でも懐かしく思い出します。主人の不在中に、火災の連絡が入り、電話連絡網による連絡先を間違えて後から注意されたこともあり、火災などの災害は時と場

所を選びませんので、冬の深夜の出勤は現場に無事着くか、又帰りが遅い時などは心配でなりませんでした。そのような主人の消防団生活も消防団長を最後に2年前に終わりました。今振り返ってみると、主人も私自身も大勢の団員の方々とそのご家族の方々に支えられて、歩んできたことに深く感謝をしております。地域を守る消防団の活動は団員の方々のご家族の理解と応援がなければできないと思います。おかげさまで、昨年の春に、主人は栄えある叙勲を拝受させていただきました。この栄誉は中原消防団の大勢の団員の皆様と、そしてその消防団活動を支えてくれたご家族の皆様の賜物とありますが、感謝をいたしております。今後も中原消防団の皆様が私たちの地域の安全を守るために、ご活躍いただきますように宜しくお願いいたします。

期待の星

新入団員紹介

中原分団



小川育也

1 S51・7・29 2 会社員 3 社会貢献 4 消防団員としての活動を覚え、地域の為に役立てていきたいと思っております。

大戸分団



山口勝良

1 S48・2・18 2 会社員 3 地域の高齢化等で人が足りないと感じ、元自衛官の自分が役立てばと思いい入団しました。 4 いろいろな技術を学び、いざという時に役に立てる団員になりたいです。



大橋敏也

1 S59・12・30 2 エンスト勤務 3 東日本大震災での消防団の活躍を見て、私も自分が住んでいる町を守りたい、少しでも力になりたいと思いい入団しました。 4 若世代の消防団員が非常に少ないと感じるので、先輩方の後継者として受け継ぎながら、少しでも同世代の人達に消防団に興味を持ってもらう活動をしたいです。

住吉分団



栗野伸夫

1 S56・11・17 2 酒小売業 3 交通指導員を拝命したばかりなので両立ができるか悩みましたが、分団長の勧めもあり入団を決めました。 4 訓練その他休まず出席することを目標に、技術を習得し地域のために頑張ります。



小林美智子

2 会社員 3 救護知識を学び、そのスキルを高めたいと思いい入団しました。 4 女性団員の活動が、地域住民の皆様幅広く認知していただけるよう尽力したいです。



宮崎慎也

1 S48・4・3 2 カーケミカル輸入販売 3 同班の高橋さんより誘われました。 4 昨年は、世界中で大きな自然災害が起こり、今まで以上に地域に根ざした消防団の役割が大きくなっていると思っております。少しでも地域防災の役に立ちたいと頑張ります。

丸手分団



阿部年一

1 S38・6・29 2 会社員 3 同業者の方から消防団の様々な話を聞き自分も挑戦してみたいと思いました。 4 自身を磨くと共に地域貢献の為に頑張りたいと思っております。



伊藤隆浩

1 S59・10・24 2 不動産会社 3 地域に貢献したくて。 4 入団の希望者を集め、多くの団員で地域の安全を守れたらと思っております。



椎名義之

1 S51・8・26 2 タクシー運転手 3 親戚が団員だった事もあり、以前から興味はあったのですが、最近、団員の高橋さんと知り合いになり、入団を決めました。 4 消防の事は何も分かりませんが、訓練に参加し、現場や大会で発揮できるようにしたいです。

稲葉啓二 (Inaba Keiichi)



稲葉啓二

1 S45・3・2 2 会社員 3 団員の方にお誘い頂いたご縁です。 4 震災もいつ起きるか分からないので、地域のために尽力したいと思っております。



往田和章

1 S45・8・23 2 鍼灸マッサージ師、ケアマネージャー、柔道整復師 3 震災のボランティアをきっかけに、もっと地域の為に貢献したいと思いい入団しました。 4 右も左も分かりませんが、一所懸命頑張りたいと思っております。宜しくお願いいたします。



小出暁良

1 S60・7・30 2 不動産の営業 3 東日本大震災がきっかけで、地域の防災に協力したいと考えた為。 4 災害時迅速な行動ができる様に学んでいきたい。

- ① 生年日付
- ② 職業
- ③ 入団のきっかけ
- ④ 抱負

「震災を振り返って」

中原消防団特別研修



特別研修後のインタビュー
本日の会を開催することになったきっかけはどんな事なんでしょうか。

団長 3月11日の経験、決して忘れてはならないし、また後世の人に伝えていかなければならないと思っただけで、ぜひとも消防団員の皆さんにも、今一度振り返っていただいて、いざという時には助ける側の糧の一部にしたいだければなと思いい、開きました。

本日の会を開催してみてどうでしたでしょうか。

中原消防団では、平成24年1月19日(木)に中原消防署講堂に於いて、特別研修「震災を振り返って」の会を開催しました。団員として、一市民として、3月11日大震災の日に体験した事を各分団の代表者が発表しました。何ができ、何が出来なかつたのか、これからの消防署のこれからの対応や、現地に派遣された署員の体験もあわせて発表され、講堂に入りきれないくらい多くの団員が話を聴きに集まり、熱の入った意見や要望等が出されました。会の開催後、田中団長、生坂副団長、川野副団長、山口署長にお話を伺いました。

までの地震対応訓練とは違う座学でしたが、本当に為になったと思います。非常に良い研修でした。

川野副団長 団員の皆さんが熱心に大勢参加していただいた事が第一印象です。それから皆さんの思い、地域の安全・安心を守りたいと願う気持ちを実感いたしました。良い研修会だったと思います。

署長 最初はどのくらいの方が集まっていたか、半信半疑の部分があったのですが、椅子が足りなくなることくらい大勢の消防団の方に関心を持っていただいていたことに対し、中原区は心強いなと思えました。また、今日、各団員の方が色々お話しされた内容は我々にも気が付かなかつた事もございますし、これから行政の中に、深くそういう事も取り込みながら、消防団の方々と一緒に中原区の安心安全に生かされたいというふうにしてまいります。

どうもありがとうございました。



※研修の内容は広報部作成のDVDで視聴できます。消防団へお問い合わせ下さい。

平成8年に神奈川県下において初めて川崎に女性消防団員が発足し、中原消防団では3名が任命されました。現在では11名の女性団員が活躍しています。

男性消防団員の中で女性消防団員の特徴を生かした活動を探していましたが、平成18年から救命講習のお手伝いをする事になり、ようやく女性消防団員として活動の場を見つけ出したように思います。私たちは応急手当普及員の資格を取り、そのうち4名は川崎では女性で初めての応急手当指導員になりました。現在では男性消防団員も参加し、救命の普及活動は消防団としても重要な活動になっていと思っています。

女性消防団員15年を迎えて

1期生 丸子分団 石井克枝 班長



団員になる前年に阪神・淡路大震災、昨年の東日本大震災と15年の間、数々の大災害が発生しましたが、その都度多くの消防団員が活躍されたなか、犠牲者も多くありました。このことから私達消防団員は大きな課題を背負い、災害に役立つようもつと努力が必要だと思えました。

15周年を迎え、私たち女性消防団員は消防団の活動の範囲を広げていける可能性をもっていると思います。私たち一期生はその礎となり、女性消防団員の増加を目指し、益々活躍する為の助けが出来ればと思っています。

列伝 分団の人気者



中原分団 渡邊保 班長 (小杉班)

中原分団でミスター消防と呼ばれている、渡邊保班長を紹介します。入団4年目、昭和44年西年生まれの42歳。家族構成は奥様と中学生の女の子二人(中3と中2)。

性格は写真とは違って極めて真面目、器具点検、消防大会の訓練、準備と誰より早くきて作業に取り掛かる姿を見て、ミスター消防と呼ばれています。入団4年にして分団員から絶大な信頼を受けている保さん、これから中原分団の為、地域の為に消防活動に励んで頂きたいと思えます。あと、ゴルフのスイングはプロなみに綺麗なのに何でスコアは：(笑)

(中原分団 峯岸雅宏)

編集後記

中原消防団広報誌「翔太」第13号をお届けします。発行にあたり、ご協力に深く感謝致します。

発行責任者	田中実
編集	中原消防団広報部
広報部長	田邊晴輝
中原分団	坂西利秋
大戸分団	峯岸雅宏
	山本静一
	鹿島秀樹
住吉分団	横山芳春
	田口真弓
玉川分団	若島稔
	(写真撮影)
	野口芳正
丸子分団	畑昭仁
	石井克枝